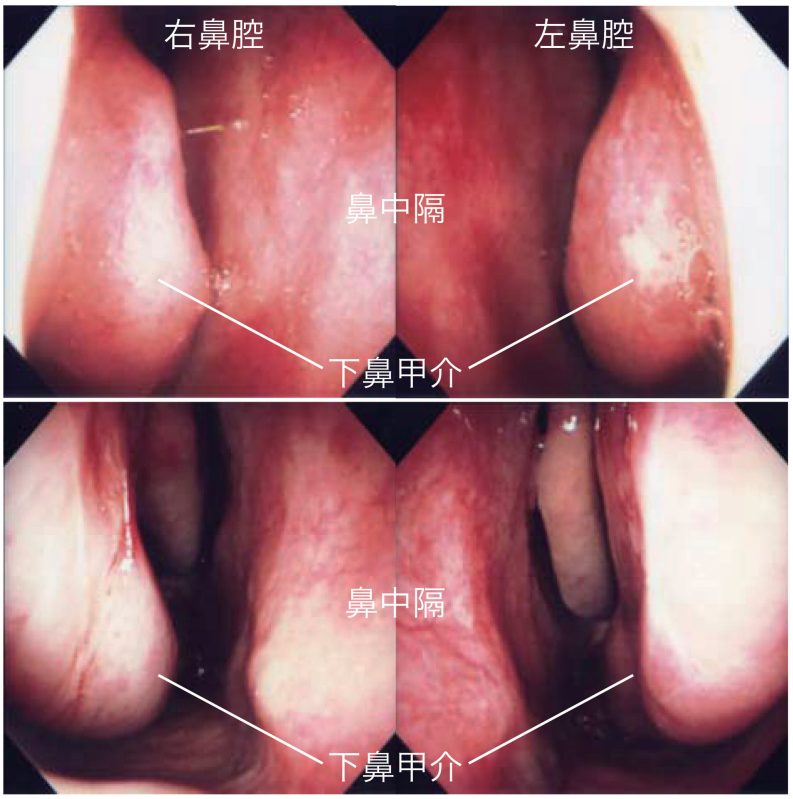
大分大学医学部附属病院
OITA UNIVERSITY
かけはし
平成24年10月1日
第 51 号
［発 行］
大分大学医学部附属病院広報誌発行委員会

アレルギー性鼻炎の手術治療

アレルギー性鼻炎の主症状であるくしゃみ、鼻みず（鼻漏）、鼻づまり（鼻閉）は日常生活に大きな影響を及ぼします。アレルギー性鼻炎の治療は内服薬や点鼻薬が一般的ですが、患者さんの中にはお薬ではよくならない重症の方がいらっしゃいます。こうした重症の方に対して本院耳鼻咽喉科では手術治療を行なっています。手術には外来での鼻粘膜焼灼術（局所麻酔）と入院での手術治療（全身麻酔）がありますが、治療効果という点では後者が圧倒的に優れています。手術方法は全身麻酔下に（痛みを感じることなく）、鼻中隔矯正術、粘膜下下鼻甲介骨切除術、後鼻神経切断術を同時に行ないます。鼻中隔は鼻腔を左右に隔てる壁で、これが曲がっていると鼻閉の原因になります。弯曲した骨や軟骨を切除し、鼻中隔をまっすぐにします。下鼻甲介は鼻の中の粘膜ひだで、アレルギー性鼻炎では腫れがひどいことが多く、鼻閉の主原因となっています。下鼻甲介の骨や粘膜下組織を減量し、鼻腔を拡げます。この2つの手術で重症の鼻閉は改善します。また鼻漏やくしゃみに対しては後鼻神経という神経を切断することで、過剰な鼻汁分泌やくしゃみを抑えることができます。手術はすべて内視鏡下に行ないますので、とても低侵襲です。鼻の本来の機能を損ねることのないよう、丁寧な手術を心がけています。手術時間は2-3時間で、1週間程度の入院が必要ですが、ご希望により手術翌日の退院（短期滞在）も可能です。しかし、手術後すぐに鼻のつらい悩みから解放されるわけではなく、術後1-2週間は鼻の中が腫れて鼻が通りづらくなりますので、大事なお仕事や受験の直前にはお勧めできません。鼻症状は徐々に改善し、術後1ヵ月程度経過すると、かなり改善が得られ、日々の生活の中で快適さを実感されるようになると思います。お薬が不要になる場合がほとんどで、効果も長期間持続しますが、アレルギーそのものが治るわけではありませんので、わずかながら再燃もみられます。アレルギー性鼻炎で長年お困りの患者さんは耳鼻咽喉科にご相談下さい。



図．手術症例の鼻内所見．鼻中隔弯曲、下鼻甲介腫脹、水様性鼻漏は術後、著明に改善している。

（文責　耳鼻咽喉科　児玉　悟）

教授に就任して

おおいた地域医療支援システム構築事業・産婦人科分野
奈須　家栄

平成24年4月より、大分県の委託業務として大分大学医学部に開設されている「おおいた地域医療支援システム・産婦人科分野」を担当することになりました。

おおいた地域医療支援システム構築事業（産婦人科分野）が取り組む主な課題は3つです。まず第1の課題は「地域における産婦人科医療に対するニーズの分析」です。現在、産婦人科医療の崩壊が全国的な社会問題としてクローズアップされています。大分県においても産婦人科医は年々減少しています。その結果、「お産難民」という言葉に表されるように、1次医療圏内に分娩を扱う施設がなく、遠方での出産を余儀なくされる妊産婦が続出しています。この産婦人科医療の危機的状況の改善のため、大分県内の産婦人科医療の現状を把握・分析しています。

次に「地域密着型後期研修プログラムを運用した産婦人科医療の確保」が挙げられます。大分県では、全国に先駆けて産婦人科医を目指す後期研修医確保の対策を始めています。そのモデル事業として、大分大学医学部産科婦人科学講座と中津市民病院産婦人科の連携による地域密着型後期研修プログラムを行っています。中津市民病院に勤務する産婦人科医を確保することにより、平成22年より分娩取り扱いを再開しました。大分大学医学部からの様々な診療支援により、地域医療に携わる産婦人科医の負担を緩和し、若手医師の教育・キャリア形成を支援することで、熱意に満ちた産婦人科医が地域住民の皆様の診療に取り組めるようにサポートしていきたいと思います。

最後に、「安心して子供を生み育てられる保健・医療の充実に資する情報発信」を行います。前述の事業による地域医療支援を通して、安心して子供を生み育てられる母子保健・産婦人科医療システムの構築状況を広く県民の皆様へ情報発信していきたいと考えています。

私は大分市の出身で、地元の大分医科大学を卒業し、ずっと大分県内で産婦人科医として勤務してきました。地域医療支援システム構築事業を通して、郷土の医療の発展のためにさらに努力したいと思いますので、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

教授に就任して

大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業
末延　聡一

大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業は、平成24年4月1日、大分市における小児急性救急疾患診療支援と現状調査、小児科医の養成・研修、急性脳症・痙攣などの急性救急疾患に関する基礎疾患の解析および小児災害救急医療体制の整備と支援を主事業として開設されました。

7月1日付で、本事業の教授を拝命しましたので、一言ご挨拶と抱負を申し上げます。

本事業の役割は、ここ大分が、こどもたちとご家族にとって住みやすい地域になることを全力でサポートする事で、そのため小児急性救急疾患に対する、診療・教育および疾患研究を行います。

診療では、適切な一次診療の場が必要であり、若いご両親がともに仕事を持っている場合、時間外診療が必要とされるため、特に夜間診療の適切な支援と、救急医療体制の整備、急性救急医療現場での診断治療が重要です。大分市は、県の協力を得、本事業の一環として「大分市小児夜間急患センター」を平成24年4月1日に開設しました。365日　夜間20時～22時の間、大分大学勤務小児科医、大分大学小児科医局から出向している地域の勤務医、さらに大分市の開業医の先生方が交替で一次診療にあたり、万が一、急変した患者さんは、すみやかに本院小児科、救命救急センターおよびICUと協力した後方支援、高次医療が必要となります。

教育面では、大分大学医学生は本院外来・病棟での臨床実習に加え、大分市小児夜間急患センターや、開業医の先生方、地域中核病院の小児科医より臨床現場で直接医学教育を受ける事が可能となり、そのサポートを行います。医学生や研修医が小児の診療に興味を持ち、診療介助を行うことで、こどもに対する接し方、親御さんの不安や心配に対する寄り添い・共感、さらに診断スキルを磨くことが出来ます。

研究では、夜間救急受診する家族の心配・問題点を検討、適切な小児夜間診療体制の構築を行います。また、痙攣重積患児の適切な治療と基礎疾患の検討、かぜ症候群に対する投薬の統一化などの臨床研究を続け世界標準の適切な診療がどの地域でも受けられる事を目指します。小児突然死の原因としての虐待やその他の基礎病態の原因究明も研究項目としています。

加えて、大規模災害発生時の医療体制整備・支援を整備します。私は、東日本大震災の10か月後に、岩手県立大船渡病院、陸前高田病院に短期出向させて頂きました。その経験を忘れずに、災害医療の準備を実行したいと考えています。

さらに、私のもうひとつの専門分野であります、小児血液・腫瘍性疾患の臨床・教育・診療も、引き続き担当させて頂きます。

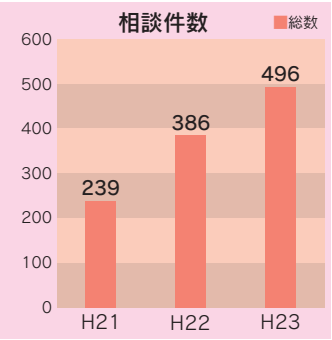
将来を担う大分っ子が元気に、幸せに過ごすため、こどもたちとそのご家族への適切な診療の提供こそが、社会のインフラストラクチャーと考えます。どうかご支援をお願い致します。

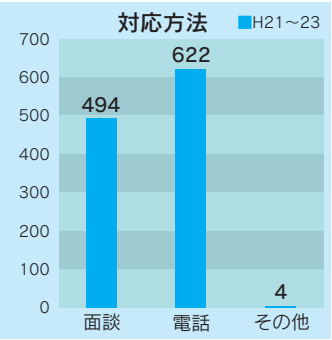
平成24年10月1日
第51号

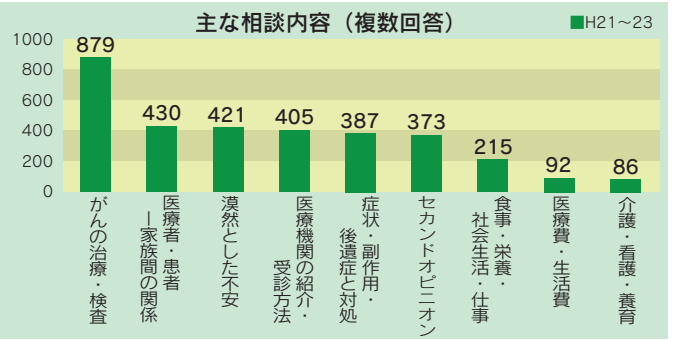
がん診療相談支援室のご案内

病気と向き合うことは、納得いく医療を受けるための第一歩です。そのためには、自分の病気や治療法について十分に理解する事が大切です。特に、がんの治療・療養において情報は“力”となります。治療やケアを受ける上で、正しい情報を上手に集めることが重要になります。しかし、患者さんやご家族が自分たちの悩みを他の人に話したり、病気のことを打ち明けたり、経済的なことを相談したりすることは難しいものです。

こんなときは「がん診療相談支援室」にご相談下さい。本院にかかっていなくても、どなたでも無料でご利用できます。がん専門相談員としての研修を受けたスタッフが信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の質問や相談をお受けしています。ご相談者が、問題解決への次の一歩を踏み出せるように支援いたします。







相談窓口：　がん診療相談支援室受付

受付時間：　8:30～17:00（平日）
電　　話：　097－586－6376

※ 相談無料・予約不要・匿名ＯＫ

“がん患者・家族の交流会” を開催しています

がんの患者さん、家族の方であれば
どなたでも参加できます！
ひとりで悩まないで一緒に話しませんか？
おなじ経験をした仲間だからこそ分かりあえる！
がんでお悩みの方、同じ病気を持つ人と
お話してみたい方は、どうぞお気軽にご参加ください

（参加費・事前申込みは不要です）

日　時：毎月第１金曜日　14時30分～16時
場　所：大分大学医学部 医学図書館１階 視聴覚室

※ 院内ポスターやホームページで開催のお知らせをしています

お問い合わせは、がん診療相談支援室まで！

～ ご利用された方の声 ～

「相談して 気持ちのブレが消えました。
これから納得して治療を受けられます。」

「力強い味方ができた思いです。これからも
相談にのってください。」

「自分で調べてもインターネットは情報が多すぎて
混乱します。相談室へ相談することで正確な情報
を得ることができました。情報を知らないことは
損ですね。」

「がん治療は 医療費が大変なんです。相談にのって
もらって助かりました。」

「どこに相談したら良いか分からず、ずっと悩んで
いました。相談できるところが分かったので、
今後は安心です。」

お気軽にご相談ください

（文責　がん診療相談支援室　上玉利 由美子）

シリーズ　サービス向上の取り組み

患者さんの入院期間が短くなっている大学病院の現状では、外来での継続した医療・看護は大変重要な課題になっています。私たち外来看護師は、患者さんに対して、初めての受診から、入院前・後にかけて途切れることがなく支援できるように努力をしています。入院前の患者さんの病気や治療に対する思い・希望を確認し、病棟看護師に申し送り、入院中にその情報を生かした看護を提供するお手伝いをしています。また、入院後は、病棟看護師から入院中の患者さんの様子や、外来で引き続いて行う支援を申し送られ、退院後の受診で継続して実施できるように取り組んでおります。ご家庭や地域の中で日常生活を送りながら病気や健康を管理していく上で、心配や不明点などありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。　（文責　外来師長　嶋川由紀）

シリーズ　病院再整備

完成まであと3ヶ月あまりとなりました新病棟は、徐々に建物を覆っていたシートが撤去され建物の全体像が見えてきました（右写真）。

現在は、建物の壁・床・天井などの内装工事、既存の西病棟との接続工事などが行われています。

新病棟の完成までの間、患者さんには騒音・振動などでご迷惑をおかけしておりますが、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いします。

また、平成24年8月末日に救命救急センターが完成し10月から運用を開始しました。ドクターヘリやドクターカーを備え、建物の屋上にはドクターヘリが離着陸できるヘリポートを、建物に隣接する道路には救急車専用の進入口を設けています。救急医療、災害医療にも本院が大分県の中核病院としての更なる貢献が期待されます。　（文責　病院再整備推進室）

救命救急センター

屋上ヘリポート（救命救急センター）

平成24年10月1日
第51号

限度額適用認定証について

ご案内 ～ 70歳未満の方は高額療養費の制度が変わりました ～

平成19年4月より**「高額療養費限度額適用認定証」**が発行されています。平成24年4月からは入院だけでなく外来でも使用できるようになっています。これまでは保険診療費全額を病院に支払い、後日申請により高額療養費が支給されていました。

「限度額適用認定証」を病院に提示することで自己負担額に応じた金額の支払いで済むことになります。

「限度額適用認定証」を提示しても保険診療費が限度額に満たない場合はそのままの保険診療費での請求になります。

自己負担限度額表

所　得　区　分	３回目までの限度額	４回目以降
上位所得者（基礎控除後の所得600万以上）	150,000円+{医療費－500,000円}Ｘ1%	83,400円
一　般	80,100円+{医療費－267,000円}Ｘ1%	44,400円
低所得者(住民税非課税)	35,400円	24,600円

注　意

これまでの高額療養費制度も継続されますので、「限度額適用認定証」を提示せず保険診療費全額を病院に支払った後、申請し高額療養費を受け取ることも可能です。「限度額適用認定証」の適用は病院ごと、入院ごと、外来ごとに分かれています。

同じ世帯で同月内に21,000円以上の限度額を2回以上支払うと、申請により限度額を超えた金額の支給を受けられる場合があります。

「限度額適用認定証」に関する問い合わせ先（保険証の種類により異なります）

＊国民健康保険　→　市町村役場　（大分市の場合　大分市役所　097-534-6111）
＊組合保険・共済　→　会　社　（勤務先の担当者にご確認下さい）
＊協会けんぽ・船員　→　全国健康保険協会（管轄が大分市の場合　全国健康保険協会大分支部　097-514-3077）

※限度額認定証には、有効期限がありますのでご確認ください。

（担当部署　医事課）

あなたの声を待っております。良い病院になるために

患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。

声　血液検査の結果が出るまでの時間がいつもより長いと思われた。耳鼻科の医師に伝えたところ、「自分たちも待つだけ」と言われ、他人事のように受け取られた。検査時間の短縮、患者への対応を考えていただきたい。（外来、男性、40代）

回答　報告に時間を要したのは機械の故障のためではなく、検査値に異常があったので、もう一度検査をしていたためです。再度検査するときには赤血球がこわれていないか（溶血）、食後のため血液が脂肪分で濁っていないか（乳ビ）などについても確認するため、平均報告時間（たとえば血糖：約30分、C-反応蛋白：約40分、PT・ APTTなどの凝固検査：約40分）に加えて30～60分の時間を要します。その間は電子カルテには『再検査中』と表示されます。お急ぎの場合は、主治医を通して連絡いただければ初めの検査値と検査状況を伝えることができます。検査部では、確実な結果報告と検査時間短縮の改善を常に心がけております。皆様の御理解をお願いします。

（文責　病院長　野口隆之）

大分大学医学部附属病院
〒879-5593　由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番地　TEL 097-549-4411 ㈹
大分大学医学部附属病院ホームページ　http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html

子育てサポートしています　2011年認定事業主

１号から 50 号までの「かけはし」は、医事相談窓口にありますので、遠慮なくお申し付け下さい。
また、医学部附属病院ホームページからもご覧いただけます。